

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年12月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0770101657		
法人名	社会福祉法人 生愛福祉事業団		
事業所名	グループホーム 生愛レジデンス		
所在地	〒960-0251 福島県福島市大笹生字向平12 (電話) 024-555-4611		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成19年11月26日	評価確定日	平成20年1月15日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療・福祉・介護体制が整備されており、安心と笑顔に包まれた温かい環境のもとで利用者はゆったりと落ち着いて生活している。日当たりの良い居室は、好みの観葉植物が置かれるなど、自宅のような快適な空間となっている。職員も地域密着型サービスの理念を十分理解し、地域に溶け込んだホーム、地域との交流が図られるホームを目指して取り組んでいる。また、職員のネームプレートの裏側には、ホームの理念を明記し職員全員が理念を共有するための方法の一つとして活用している。前回改善項目となった、早朝時の職員配置についても勤務ルーテーションを検討しながら、現体制の中で改善がなされている。利用者のニーズを把握するためにセンター方式を採用し利用者の希望や意向を把握し、介護計画に反映している。しかし、介護記録に利用者の状況変化が顕著に現れている場合、随時の見直しや計画変更の記載内容が確認されなかったのは残念である。

【情報提供票より】(平成19年9月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算 6.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,500 円	その他の経費(月額)	7,875 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87 歳	最低 70 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福島西部病院
---------	--------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 昨年の外部評価において改善を求められた早朝時の職員体制はホームとしても十分認識しており、即改善された。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全員で行ない、その結果を管理者が総括的に評価し職員に周知している。法人責任者も内容を把握し改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議は、平成19年5月より2・3ヶ月に1回開催している。地域包括支援センター代表、町内会長、地区の民生委員、地区住民代表、利用者家族が委員となっており、会議内容も具体的に記載されており、利用者の生活状況や行事内容をパワーポイントで説明し理解を得たり、外部評価についても委員に説明し改善に向けて情報交換するなど運営推進会議を活用している。一層、地域との連携を基に開かれたグループホームとして発展されるよう期待したい。なお、運営推進会議は概ね2ヶ月に1回、定期的で開催されるよう望む。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 法人全体の広報誌を定期的に送付し、個々人の健康状態や活動状況については写真と同封し、定期的に報告している。また、身体状況に変化等があった場合はその都度電話で報告している。預かり金については、支出状況を明記し領収書の原本を送付し、適正に管理されている。ご意見箱を設置し、家族や利用者の意見や要望を聞くように配慮している。また、運営推進会議でも家族の代表より要望や意見等が出されるよう発言の場を設定している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の神社のお祭りに利用者と参加したり、小学校の児童が世代間交流の一環としてホームを訪れ、利用者との交流を深めるなどしている。また、小学校の学習発表会に招待され、見学をするなど日常的に地域との交流を深めている。
重点項目④	

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	制度改正に合わせ、地域密着型サービスを提供するホームの役割を職員が意識・理解し、地域に溶け込み、地域との交流を図りながら住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための支援を行う理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員のネームプレートの裏に理念を印刷し、理念を全員で共有するために活用している。また、内容を復唱し理解しながら、実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議には地域住民の参加もあり、神社のお祭りなど地区の行事に利用者も参加し、双方向の交流を行っている。今後は地区の消防団のメンバーも参加してもらうことで、災害時の連携にも繋がるのではないかと。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価の意義を理解し、自己評価も全員参加で行っており、昨年の外部評価の改善事項についても速やかに対応し改善している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の意義や結果を伝え、会議の意見は施設の改善に活かされている。概ね2ヶ月に1回定期的に開催し、次回の会議日程を事前に決めることで委員の参加も多く望めるのではないかと。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用料金請求時に、広報紙を送付している。預かり現金出納に関しては、領収書を添付し出納帳を家族に送付している。身体状況の変化等があった場合は速やかに電話等で報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付には担当者を置き、第三者委員、ご意見箱を設置している。運営推進会議に利用者の家族が参加しており、そこでいただいた意見を反映させている。面会時などに意見が出るような雰囲気作りを心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動が主であり、異動する場合は利用者と送別会を行うなど、入居者に理解してもらっている。利用者の生活歴や留意点等の申し送りも十分行われている。今後、日課表のマニュアルや分担表のマニュアル作成なども検討されたらどうか。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内施設のスタッフが講師になるなど、施設内研修は月1回開催している。外部研修へも積極的に参加し、内容の伝達研修をするなどしている。資格取得も積極的に促し、取得した資格を活かせるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会、全国認知症グループホーム協会に加入し、研修の機会を積極的に活用し、他事業所の職員との交流を行っている。今後は他のグループホームを入居者と共に見学することを検討している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昨年度指摘されたことに取り組んだ結果は効果が大きかった。入居者の生きた時代背景を把握することなど、利用者から学ぶことが多くあった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のニーズを把握するためにセンター方式を活用し、本人の生活歴や馴染みの暮らしの把握に努めている。また、日常の生活の触れ合いの中で意向や希望について話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が情報を持ち寄りながら、本人や家族が望む生活や課題等を検討しながら必要な支援を盛り込んだ個別具体的な計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個別具体的な介護計画に、期間に応じた見直しや状況変化に対応した見直し内容が確認されなかったのは残念である。モニタリングやカンファレンスを行い、柔軟な見直しを行なうことが必要である。	○	介護記録に利用者の状況変化が顕著に現れていることが確認されている場合、本人や家族等と相談し、予防的に対応するためにも柔軟に計画の見直しを行うことが必要である。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や職員の同行により、かかりつけ医等の受診が行なわれている。また、家族や職員が受診内容等を報告し合い、適切な医療受診が行なわれるよう情報を共有し支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「終末期の看取り指針等」に関するマニュアルは整備されており、急変時には医師との連携により家族の同意を得ながら対応することとしている。	○	医療連携加算を取得しているので、利用者が重度化し看取りが必要な場合等における指針を定めて入居の際の家族への説明、同意を得ること、また、重度化に伴う意志確認書を作成し、説明を行なうことが必要である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者本位のケアに努めており、プライドを尊重しトイレ誘導の声かけにも十分配慮している。個人情報に関するファイルの管理には十分留意し、職員の守秘義務についてもグループ全体として徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状況に沿ってそれぞれのペースで自由に過ごしており、利用者の意欲を引き出せるようできるだけ希望に沿った支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付け、後片付けも自然に役割が決まっており、利用者のペースで和やかに行なわれている。利用者は馴染みの食器を使用し、職員も一緒に食卓を囲みながら楽しんで食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ利用者の好きな時間に入浴できるように努めており、介助する職員も利用者の羞恥心に配慮し、同性同士で支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者の得意とする編み物、書道、畑仕事等それぞれに役割を見つけ、力を発揮する場を提供したりして、楽しみながら過ごせるよう支援している。また、職員は必ず感謝の意を言葉で伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者の希望を取り入れて買い物、散歩、美容室等の外出を支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階部分がホームになっており、来訪者にはインターフォンで対応している。エレベーターの近くのセンサーにより利用者の状況が確認できるようになっているが、センサーに頼らず利用者のその日の状況を察知しながら、さりげなく見守り行動を共にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員3名が自衛消防訓練教育を終了し、併設の特別養護老人ホームと合同で定期的に日中・夜間を想定した避難訓練を行なっている。また今後は地域の自衛消防組織の協力が得られるよう運営推進会議を通じて呼びかけることとしている。備蓄は行なわれていない。	○	災害に備えて食料や飲料水、寒さに対する暖房物品等の備品の準備が必要である。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェックしている。職員全員でそれぞれの摂取量を把握し、摂取量が少ない方には間食で捕食している。また、法人の栄養士によるカロリー計算を基にし、栄養バランスを考慮しながら献立に活かしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔なりびングであり、利用者はそれぞれに好みの場所を選んでゆったりと過ごしている。衛生、採光、テレビの音量などにも配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良い場所に、鉢植えの観葉植物が置かれるなど快適な居室となっている。ただ、木製のベッドに手すりがないため、高齢の利用者が起き上がる際の負担軽減のため、ベッドのサイドにつかまることができる手摺りを設置してはどうか。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム 生愛レジデンス

記入担当者名 齋藤 亜早美

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。